

# 平成25年（2013）8月 入域観光客数概況

8月の観光客数は、70万5,500人  
対前年（H24）同月比 +9万8,300人、+16.2%  
～単月で初の70万人超え～

## 入域状況

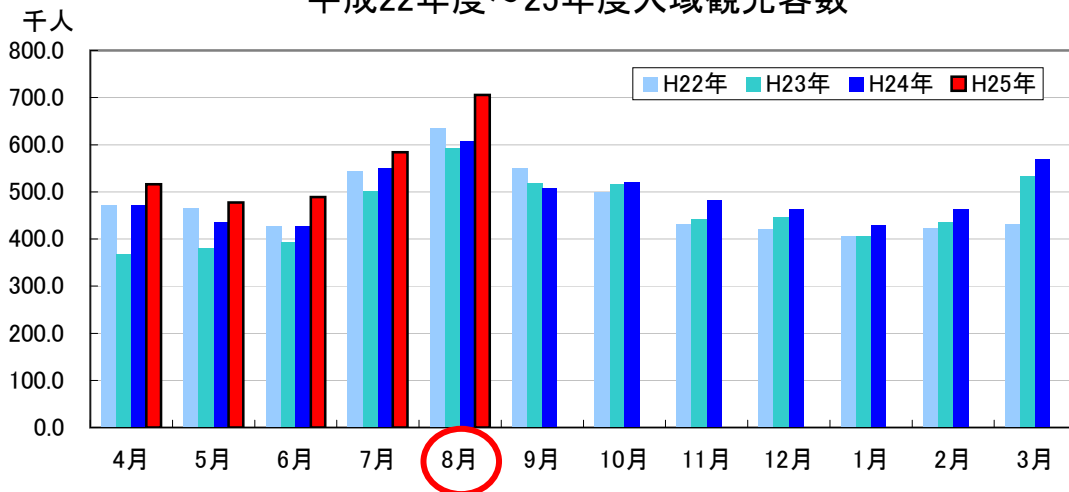
入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を含む

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	645,100 人	562,100 人	+ 83,000人	+ 14.8%	91.4%
外国客	60,400 人	45,100 人	+ 15,300人	+ 33.9%	8.6%
合計	705,500 人	607,200 人	+ 98,300人	+ 16.2%	100.0%

入域観光客数（平成24年度との比較） ※外国客については、特例上陸者を除く（前年度未発表値）

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
国内客	645,100 人	562,100 人	+ 83,000人	+ 14.8%	92.4%
外国客	53,000 人	38,300 人	+ 14,700人	+ 38.4%	7.6%
合計	698,100 人	600,400 人	+ 97,700人	+ 16.3%	100.0%

平成22年度～25年度入域観光客数



## 国内客 入域状況

8月は、トップシーズンであることに加え、個人消費回復や雇用情勢改善など景況感が上向いていることから、入域客数は前年を大幅に上回った。台風は接近したものの、前年に比べ欠航等が少なく、旅行者の動向に影響を与えるほどではなかった。

9月は、引き続き台風襲来の懸念はあるが、一部地域を除き旅行商品の販売状況が概ね良く、入域客数は前年を上回る見込み。

## 外国客 入域状況

8月は、台風の影響によりクルーズ船寄航が一部キャンセルとなったものの、昨年比で航空路線が拡充された台湾、韓国を中心に好調に推移した。東南アジア方面からの入域も増加しており、査証緩和の影響が出始めたと思われる。

9月から10月は、重点市場においては連休が続くため引き続き旅行需要が高く、特に台湾、韓国を中心に好調に推移する見込みである。

## 国内客 地域別入域状況

区分	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	323,400 人	290,700 人	+ 32,700人	+ 11.2%	50.1%
関西方面	132,600 人	104,600 人	+ 28,000人	+ 26.8%	20.6%
福岡方面	74,100 人	69,100 人	+ 5,000人	+ 7.2%	11.5%
名古屋	50,500 人	41,700 人	+ 8,800人	+ 21.1%	7.8%
その他	64,500 人	56,000 人	+ 8,500人	+ 15.2%	10.0%
合計	645,100 人	562,100 人	+ 83,000人	+ 14.8%	100.0%

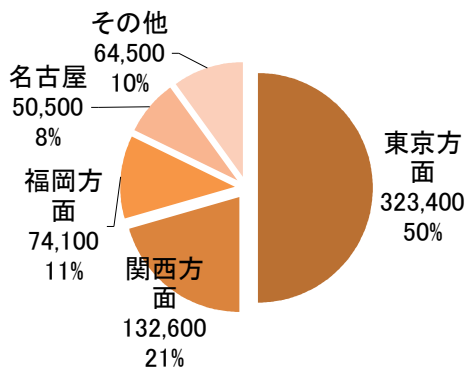
※国内海路客 4,500人を含む(関東:100人、関西:100人、鹿児島:4,300人)

## 外国客 国籍別入域状況

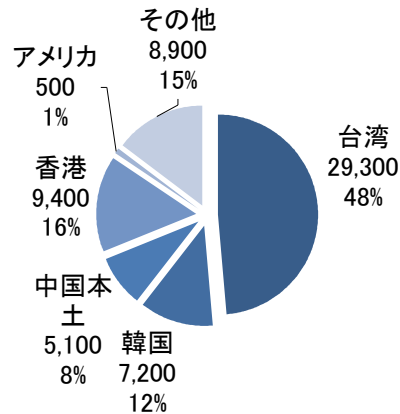
増減数及び増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	H25年度	H25年度	H24年度	増減数	増減率	構成比
	(特例除く)	(特例含む)	(特例含む)			
台湾	29,300 人	29,300 人	17,300 人	+ 12,000人	+69.4%	48.5%
韓国	7,200 人	7,200 人	2,400 人	+ 4,800人	+200.0%	11.9%
中国本土	3,500 人	5,100 人	11,000 人	△ 5,900人	△53.6%	8.4%
香港	9,400 人	9,400 人	7,300 人	+ 2,100人	+28.8%	15.6%
アメリカ	500 人	500 人	400 人	+ 100人	+25.0%	0.8%
その他	3,100 人	8,900 人	6,700 人	+ 2,200人	+32.8%	14.7%
合計	53,000 人	60,400 人	45,100 人	+ 15,300人	+33.9%	100.0%

### 国内客の地域構成比



### 外国客の国籍構成比



## 外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、特例上陸者を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比	観光客数 (特例除く)	観光客数 (特例含む)	増減率	構成比
台湾	17,800 人	17,800 人	+97.8%	43.1%	11,500 人	11,500 人	+38.6%	60.2%
韓国	7,200 人	7,200 人	+200.0%	17.4%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	3,500 人	3,500 人	△36.4%	8.5%	0 人	1,600 人	△70.9%	8.4%
香港	9,200 人	9,200 人	+26.0%	22.3%	200 人	200 人	皆増	1.0%
アメリカ	500 人	500 人	+25.0%	1.2%	0 人	0 人	-	0.0%
その他	3,100 人	3,100 人	+72.2%	7.5%	0 人	5,800 人	+18.4%	30.4%
合計	41,300 人	41,300 人	+56.4%	100.0%	11,700 人	19,100 人	+2.1%	100.0%

## 各方面ごとの概況と見通し

### 東京

8月は、家族旅行を中心に好調に推移した。八重山方面への旅行需要が引き続き好調で、全体を牽引したとみられる。離島への旅行は、個人旅行客が中心となっている模様。9月は、低価格商品が売り上げを伸ばしており、連休だけでなく平日も入込が期待できる見込み。10月は、東京方面からの修学旅行、MICEの実施も増加することから、団体客を中心に好調な推移が期待できる。

### 大阪

8月は、前年に比べ台風の影響も少なく、また、増便した伊丹-那覇路線の利用客数が大きく伸び、前年を大きく上回った。9月以降は、LCC利用の旅行商品が学生に人気で販売状況も良いが、全体としては旅行商品の販売状況が伸び悩んでおり、前年並みに推移する見込み。

### 福岡

8月は、旅行社がラストサマー商品の受注強化を図っており、販売も好調だったことから、前年を上回った。9月は、連休があるにも関わらず旅行商品の販売が鈍化しているが、直前での申し込みも多いため、前年並みになる見込み。10月は九州ブロックPTA大会開催に伴う先行商品の予約が好調で、前年以上の入込が期待できる。

### 名古屋

8月は、回復基調にある景況感に支えられ引き続き旅行需要が高く、家族旅行を中心に好調に推移した。9月は、連休期間中を中心に好調に推移する見込みである。また、石垣直行便の人気も高い様子。10月まで沖縄観光をPRする機会のあるイベントが相次ぎ、今後の旅行需要喚起が期待できる。

### 台湾

8月は、北海道をはじめ訪日旅行需要が高く、沖縄も変わらず人気が高く、台風の影響で一部クルーズ船寄航がキャンセルになったが、全体として好調に推移した。9月の中秋節の連休中(9/18-9/23頃)は、台北、台中、高雄から那覇へのチャーター便が予定されているのに加え、10月末までは航空路線の予約状況も好調なことから、引き続き観光客の入込は増加する見込み。

### 韓国

8月は、独立記念日の連休に加え、航空路線が拡充した影響により、家族旅行を中心に好調に推移した。個人旅行客のレンタカーを利用したパック旅行も増加傾向で、アクティビティ商品も人気があった模様。9月は、中旬の連休中に旅行需要が集中しているが、那覇及び宮古のチャーター便も予定されており、前年は上回る見込み。

### 中国本土・北京

8月は、航空路線を利用する客数は、尖閣関連の影響がなかった平成23年の同時期との比較で増加しており、沖縄旅行需要も回復傾向にあるとみられる。9月以降は、全体として旅行需要自体が落ち込むが、航空路線が再開されているため、昨年以上の入込は期待できる。ただ、10月の国慶節連休中における新規チャーター便就航は困難とみられる。

### 中国本土・上海

8月は、旅行シーズンのため旅行需要が高く、北京同様に航空路線を利用する観光客は回復傾向にあるとみられる。9月から10月にかけて、航空路線の予約状況は7割程度となっているが、国慶節期間中は機材大型化及び増便を予定しており、昨年以上の入込が期待できる。

### 香港

8月は、夏休みの旅行需要が牽引し、航空路線の搭乗率も9割を超え、引き続き好調に推移した。9月以降、旅行需要が減退し、さらに10月以降は、紅葉や降雪のある地域への旅行需要が高まり、沖縄旅行の優先度は低くなるため、旅行商品の販売は鈍化するとみられる。